

第16回日本ボランティア学習学会第3分科会



第3分科会では、「学びのコミュニティづくりの新たな可能性」と題して、仙波英徳氏（NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構事務局長）、平賀研也氏（伊那市立伊那図書館長）、八木浩光氏（熊本市国際交流振興事業団事務局長）の3名の発表の下に、服部英二協会理事（国立中央青少年交流の家）の進行で、26名が参加して行われた。

仙波氏は、地域で子どもに関わっている団体や個人が手弁当で集い、参画している多種多様な活動の中から、NHKでも取上げられた「御五神島無人島キャンプ」の取組みや、松山市のマップづくり、皆なの持ち味を引き出す「おでん型」の交流集会など愛媛の実践を紹介した。また、平賀氏は、「伊那谷の 屋根のない博物館 屋根のある広場へ」をキャッチコピーに掲げた伊那市立図書館の取組みから、新しいメディア、デジタルを活用しつつ、地域にこだわり地域の魅力を発信している活動を発表した。さらに、八木氏は、昨年アレック・ディクソン賞に選ばれた高校生が主体的に運営する国際ボランティアワークキャンプの実践から、若者達が実践的に地域と関わる取組み例を発表しつつ、ボランティア活動を通じた若者の地域参加の可能性などを提案した。

現在、地域コミュニティが大きく変容している中であって、新しい出会いの場の創出、地域社会が抱えている課題や持っているリソースを新たな視点で住民が情報共有していく仕組みづくり、若者も含めて人々が地域社会につながるボランタリーな実践活動やその中での学びの可能性など、限られた時間の中ではあったが様々な意見交換がなされ、参加者は多くの示唆を得ることができた。

（服部英二）